

協議会ニュース 91号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2003.11

● 特集 9月 23 日講演会 レポート

村上 興正 氏「我が国の外來種管理の現状と課題」



満席の講演会風景

講師：村上 興正 氏

●特集 9月 23 日講演会

レポート(吉川洋行・知多支部) P2~4

・名古屋支部研修報告 P5

「琵琶湖博物館企画展 外来種～つれてこられた生きものたち」

・各支部定例観察会案内 P6~7

及び「NACS-J初めの一歩講習会 in 白馬」報告

・協議会理事・監事紹介 P8~9

・理事会だより、トピックス P10

・事務局だより P11

・編集部だより・行事予定 他 P12

「我が国の外来種の現状と課題」 講師 村上興正 氏

主催/ 愛知県自然観察指導連絡協議会 後援/ 愛知県

場所/ なごやボランティア NPO センター 12 階研修室

日時/ 14 時～講演会及び、ブースディスカッション

参加人数/ 110 人 [レポート: 吉川洋行(知多支部)]

講師の村上 興正先生は、前京都大学大学院理学研究科講師、同志社大学工学部嘱託講師で、日本哺乳類学会評議員、日本生態学会外来種検討作業部会長、哺乳類保護管理専門委員会責任者であり、自然保護専門委員会の副委員長兼幹事として日本各地の自然保護問題の解決に努力し、ほ乳類の専門家として外来種問題に取り組んでこられた方である。書籍として、鷺谷いづみ氏共同監修による『外来種ハンドブック』がある。

講演会は 村上興正講師の「我が国の外来種の現状と課題」という演題で、多数のOHPシートを用意され、熱弁をふるわれ、広い研修室も満席の盛況だった。

最初に、外来種の定義についてわかりやすい説明があった。「外来種」「移入」「帰化」などの専門用語について、もとになった英語を交えて、違いがよくわかった。

外来種の問題については、まず、国の天然記念物にも指定された京都の深泥池(みぞろがいけ)での調査記録を基にした、多くの魚類の移り変わりでの外来の魚(オオクチバスとブルーギル)やカメ(アカミミガメ、カミツキガメなど)などの経年変化、帰化植物の様子について、図表を基にくわしい説明があった。外来種の駆除作業を始めた結果、在来種の増加が数字ではっきりと表れていて、この結果はうれしく思えた。

在来種を脅かす外来魚については、オオクチバス・コクチバス・ブルーギルなどの各地の池への人為的な移入と駆除事業についての問題を、「困難な駆除より、公認釣り場を設置し、ブラックバス釣りを認めて地域振興に役立てるべきだ」という釣り具関連業界団体の「すみ分け」の主張との確執や、琵琶湖に放流されたブラックバスが在来の魚の脅威となっている問題、大阪の淀

川のワンドとその池の管理の問題、在来種保護活動やバスフィッシングの箱根や東北などの湖沼での実態を通して、問題点を具体的にあげられ、私が8月に見に行つた小田原の生命の星・地球博物館での「侵略とかく乱のはてに」展で、展示標本のバスの腹の中がヤゴだらけだったり、魚や虫以外にヘビまで食べていたりという展示の記憶とともによく理解できた。

和歌山県でのニホンザルとタイワンザルの交雑種の問題では、当時の新聞記事を基にして時系列をおって、くわしく説明された。記事によれば、「1950年代に閉園した和歌山市の民間動物園にいたタイワンザルが野生化し、それが周辺のニホンザルと交雑した結果起きたもので、逃げ出した6頭が約50年の間に200頭近くに繁殖したというもの。彼らは尾の短いニホンザルと尾の長いタイワンザルの中間くらいの尾をもっており、和歌山県が「純粋な日本種のサルの保存」という目的で全頭捕獲の方針を決めた。」

タイワンザル雑種群については、生命の星・地球博物館で初めて彼らのビデオ画像を見て強いショックを受けたが、確かに一見して雑種群であった。そのビデオ画像にはかわいい小猿も多く見られ、当初から日本靈長類学会は混血ザルの速やかな駆除を要望していたが、一般市民や動物保護団体の言う「殺されるサルがかわいそうだ。たとえ混血ザルにせよ安樂死などとんでもない。」という市民感情じたいは私にも共感できるものだった。自然保護協会自体も当初「殺さないように」要望していたほどだ。しかし、村上先生の言われるように、やはり今は、心を鬼にして「生物多様性」の概念



とそれにもとづく「移入種」排除の観点に立って考えるべきだと思う。

分類学的にはどちらもマカカ属で、両種はその中でも特に近縁にあたるといわれており、また、生まれてきた雑種個体はF1もF2以降もすべて繁殖可能ということである。

和歌山県当局のコストを提示しての二者択一県民アンケート（捕獲して不妊手術をしたうえで飼育 合計 11 億円 or 捕獲して安楽死（薬殺処分） 安楽死だと 1100 万円。安楽死案に賛成が回答者の 64%） 計画の期間 平成 14～16 年度という方法は大いに問題もあるが、実現可能な方法も大切であろうと思った。

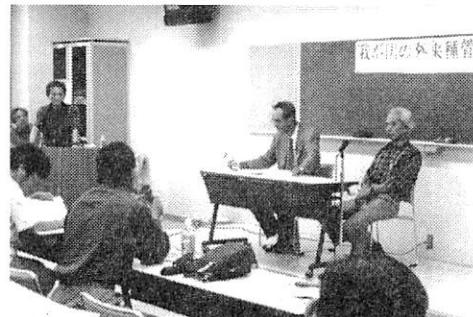
計画では「・・・従来の生息地に生息している紀伊半島のニホンザルとの交雑が始まり、ニホンザルの遺伝子かく乱が紀伊半島全域、やがては本州全域に波及することが懸念されるに至っている。このため本県では、(中略) タイワンザル及びタイワンザルとニホンザルとの交雑ザルによる生態系のかく乱を防止することを目的とする。」とある。

餌付けをした上で大型捕獲オリでいったん捕獲。捕獲個体を判定して純粋なニホンザルについては、原則として生態系に戻す。混血ザルと認定されたものについては、致死量の麻酔薬にて薬殺。全頭捕獲する。取り残しが生じた場合、残数把握のため避妊処置を施したタイワンザルあるいはタイワンザルとニホンザルとの交雑ザルのメスザルに電波発信機を装着し放逐するということだ。

Kyoto Shimbun などによると、和歌山県は今年、2003年3月28・29日の2日間で18匹を大型のおりで捕獲、タイワンザルと確認後薬殺したと発表している。

「生態系汚染」ともいわれるこのような問題は、ペットを含め、安いな外来種の遺棄をせずに最期まできちんと育てていくことができれば問題にならないのに、現実にはアカミミガメや、今回ちょうど見つかってテレビや新聞をにぎわせた1.5メートルのワニ(生後数年たった大きさ)のように、飼いきれなくなつて安易に捨てられたり、かわいそうと放流されたり、逃げ出したりした外来生物が起こしていることである。和歌山のでも、ワニやライオンのように危険な生物ならだれも駆除に反対しないだろうに・・・と思う。

生態系の攪乱を引き起こし、在来生物へ多大な悪影響を与えるものは、村上先生の言わるように現状ではできるだけ除くようにするしかない。人間が関与しすぎているから。



後半は、そういう問題に関する外来種の管理と法整備の取り組みについての話があった。

「移入種」＝「外来種」が在来種の存続 자체を脅かすという意味での「種の多様性」を直接損なう事例として、かつて沖縄本島、奄美大島のハブ対策として導入されたマングースが、ハブを捕るだけでなく天然記念物のヤンバルクイナやアマミノクロウサギをも捕食していることで、駆除の対象になったこと。限られた予算枠の中では個体数が減るにつれて駆除の効果が著しく減少していることなどについても説明された。

マングース以外でも、哺乳類・鳥類、昆虫、植物などで予想以上に多くの外来種が日本に定着しており、その影響が人の健康や農作物などにとどまらず在来種に対しても極めて大きく、根絶が極めて難しいことや、防除には多大な労力と費用が必要なことについて、話されていた。県内でも問題になってきたアライグマや、小笠原などのノヤギ、オオヒキガエル、アカギ、各地のカダヤシ、セイヨウマルハナバチ、シナハマグリ、タイワンリス、ハリエンジュ、ギンネムなどを例に、数多くの外来種が全国各地で悪影響を及ぼしてきていること、今後も様々な外来種が問題となるおそれが高いことのお話があった。帰化植物情報を見ていると、実に多くの種類が入ってきており、外国にも出て行っているようだ。それが思わぬ結果につながってくることは、わたしたちでも十分予想できることである。ノヤギは父島で見ているが、狭い範囲でも駆除はとても大変そうに思えた。

外来種が生物多様性に与える脅威については、規制案や要望書をもとに話されていました。外国産の種では輸入時の規制、国内外の種では、ペットショップなどの販売規制や飼育者の管理責任を求める法的規制などが必要なこと。外来種の侵入は近年増加しつつあり、これら生きた生物の海外からの持ち込みが、人の健康に係わる生物、農作物に被害をもたらす生物などを除けば、ほとんど野放しに近い状態で輸入されているという実態（カブトムシ、クワガタムシなど）から、行政や一般市民の理解が充分ではないことが考えられること。すでに定着してしまった移入動物への対策の他に、今後新しい移入動物の出現を未然に防ぐための法体制の検討を進めなければならないこと。外来種対策としては、生物多様性条約第5回締約国会議の外来種の予防、導入、影響緩和の中間原則指針に書かれていることを実施すべきであること。とくに日本では外来種の意図的・非意図的導入を阻止する予防的措置が不充分であるため、予防的措置に関しては、意図的導入に関しては原則10により、関係する国家機関の許可無くしては、導入してはならないようすべきこと。従来の日本の法制度が、外来種が生物多様性に影響を与えることを想定しては作成されておらず、とくに外来種が日本へ持ち込まれることを防止する予防的な側面で不備が目立つので、導入の許可に際しては環境影響評価を含むリスク評価を行い、自国と近隣国の生態系、生息地、種に容認できない損失を与えないと考えられる種のみ、導入を許可することなどを明記すること。また、最も重要なことは、このシステムを成立させる法的な仕組みを作ることであること。非意図的導入に関しても、原則11に基づく措置が必要であること。その他、国際自然保護連合の作成した「外来侵入種によってひきおこされる生物多様性減少防止のためのガイドライン」を参照しながら、日本に応じたガイドラインを作成することなどがあること、生物多様性国家戦略で述べられているCITES、種の保存法、植物防疫法など日本に現存する法律が、これらに係わる行為をどの程度規制できるかを具体的に検討して、移入種の輸入・販売や遺棄に対する法規制強化、移入種問題への基本方針や対応マニュアルの作成、

移入種の駆除などに取り組んでいくよう政府に要望していくことなどは大切だと私たちに訴えられていたと思う。

関係省庁の姿勢への批判もあったが、外来種移入防止のために努力されてただけに、「外来種の管理に関する提言」に基づいた移入動物に関する法体制の問題などについて実にくわしく話されていた。

安易な外来種の持ち込みの規制、動植物の輸入と移動、捕獲と飼養、放逐と逃亡の各段階での規制の必要性は、ブラックバスやアカミミガメ等の問題で私たちも日々、痛感していることである。また、すでに野生化した外来種の管理には、撲滅や防除などの規制が必要であることもその通りであると思う。

道路や住宅地などの開発で大規模な緑化が必要な場合、これまでには丈夫で手軽な外国産の植物がよく利用されていた。最近はヨモギやコナラなど国内産の植物も利用されているが、産地を問わず入手しやすい種子や苗が使われるため、移入した植物が繁茂して、本来その地域に自生する植物が消えたり、地域固有の遺伝的特性が失われたりする弊害が目立つようになった。これらの国内移入種としての、外来種問題についても私たちはじっくり考えて行かなければならない。

細かな文字や図表が多く、時間も予定より伸びたが、村上先生の話術と豊富な資料のおかげで、私を含め、みんなが集中して聞き入っていた。フリーディスカッションでもいろいろな意見が出て楽しく過ごすことができ、参加者の喜びの声が多かったことが良かった。（完）
（吉川）

インターネットや、観察会でのチラシ配布により、予想外の盛大にびっくり、協議会の団結のたまものだと思いました。私自身大勢来たときの受付の対応、協議会のPR、観察会チラシ等の準備不足、本の販売の不手際などを反省しております。特に、予約した人たちにご迷惑をおかけして申しわけなく思っています。今後の反省材料としてご意見があればお願いします。（大谷：尾張支部）

企画展「外来生物～つれてこられた生きものたち」を見て

名古屋支部では講師 村上興正氏による講演「我が国の外来種の現状と課題」先立ち、去る8月31日に琵琶湖博物館に企画展「外来生物～つれてこられた生きものたち」を支部研修としてウォッチングに行きました。当日の参加者10人のうち2人に感想を聞きました。



- 【質問内容】①オオクチバス・ニジマスの天丼の味はいかが？
 ②展示で印象に残ったことは？
 ③感じたこと。思ったこと
 ④あなたのフィールドまたは身近な場での外来生物の種とその問題点は？

水野智由(名古屋支部)

- ①小生は舌馬鹿なのでサーモンと同じように感じました。天丼は好きなので良かったです。
 ②昔の農家が展示してあった事です。私の居た美濃とは多少異なるようですが…。
 ③また行きたいです。ヨロシク。
 ④小生の農園では外来種と目される草が大変多く(種名は不明)周辺の方は、除草剤を使用していますが…。

大澤淳二(名古屋支部)

- ①琵琶湖博物館内での楽しみの一つがレストランのオオクチバスの料理です。果敢な、闘争心の強いオオクチバスですから結構脂っこい味ではとの予想に反して淡白なさっぱりとした味で、天丼の食材としてはまさにぴったり。こんなにおいしいのならキャッチアンドリリースなんてもったいない、魚屋さんで売るようになら環境保全にもなり一挙両得になるのではなどと帰りの車でのオオクチバス談義が盛り上がりいました。
 ②クイズ形式で外来生物に対する理解を深めるスタイルの展示会で、外来生物がいかに多いか改めて再認識しました。身近な生き物にも外来種が結構ありびっくりしたり…。
 ③生物多様性の妨げになる外来生物(ブラックバス、タイワンザル、マンガースなど)の駆逐はやはりなんとかしてでも実施すべきですが、それさえも反対する人が多いのを見ると、環境教育がまだまだこれからとの感がします。
 ④動物ではアライグマ、植物ではスイレンです。それ以外にも詳しく見ていくと外来生物の跋扈は目に余ります。これらの駆除は多様な価値観のなかで行わなければならないのが現状です。無用な摩擦を回避する為にも生物多様性の正しい考え方を環境教育で必須科目として教えるのが望ましいのではないでしょうか。

※尚、この企画展は11月24日(振休)まで琵琶湖博物館で開催されています。

まだ足を運んでいない方は是非どうぞ！

●問い合わせ:琵琶湖博物館 Tel(077)568-4811

♪ 秋の風物の「コスモス(秋桜)」ですが、かつてコロンブスが航海時代にメキシコ(北アメリカ)で発見し、その後明治12年頃、日本に伝えられたと言われる移入種(外来種)です。また今日休耕田の景観や河川の緑化の手法とになっている所を多く目にします。そのコスモスについて、村上興正氏に講演会終了後にお聞きしました。

「コスモス」は嫌地植物(植えた田畑はその後少しの期間、植物や食物は育ちにくくなる)ともおっしゃいました。

秋コスモスは、私たちの心を和ませ、癒してくれますが、今後農業面での環境作用にも考えてみたいと思いました。



←稲刈り後、大きなワラの家は見られませんが懐かしい風景です。

(編集部:荷川)

定例観察

各支部では、定例観察会が行われております。秋の行楽の季節です、是非遊びながら他の観察会に訪れてはいかがですか。また違った環境で新しい発見、一味違う自然案内方法に出会えるのではないかでしょうか。今までなかなか出かけられなった方もこの機会に出かけてみませんか？



観察会の名称／日時	集合場所／交通手段等	問合せ
-----------	------------	-----

【尾張支部】

1.海上の森観察会 第1水曜日 10時～14時	旧銭屋鉱産跡地に作られた駐車場 愛知環状鉄道「山口駅」より徒歩15分	大島 0561-52-9799
2.森林公園観察会 第1日曜日 9時～12時	森林公園案内所西の休憩所前 名鉄瀬戸線「三郷駅」より名鉄バス「森林公園口」下車徒歩5分	鬼頭 0561-38-2792
3.明徳公園観察会 第2水曜日 10時30分～12時	明徳公園北側白沢ドッグ前 地下鉄「本郷」駅より市バス「明徳公園北」下車	石井 052-771-8004
4.定光寺観察会 第2土曜日 9時～12時	定光寺山門前駐車場 JR「定光寺」駅より東へ徒歩20分	大谷 0572-23-6907
5.島田湿地観察会 第3土曜日 11時～12時	市バス 島田緑地停留所南前、島田緑地南の入り口 地下鉄「原」駅より市バス平針住宅行きに乗車	古川 052-803-0259
6.日進岩藤川観察会 第3日曜日 9時30分～12時	日進市総合運動公園北西の農道入り口 日進市の「くるりんバス」が運動公園まで来ています	鬼頭 0561-38-2792
7.守山自然ウォッチング 第4月曜日 9時30分～12時	小幡緑地公園東駐車場、 ガトウェイバス(ゆとりーとライン)「小幡緑地」下車徒歩15分	高谷 052-799-0030
8.善師野観察会 第4土曜日 9時30分～14時	名鉄広見線善師野駅前 駐車場はありません	平井 0567-23-1505
9.築水池観察会 第4日曜日 9時30分～12時30分	春日井市少年自然の家北東の三角駐車場(植物園北西) JR「高蔵寺」駅南口よりJR東海バス「植物園」下車	松尾 0568-32-5069

*尾張自然観察会のホームページをご覧ください。【 <http://www006.upp.so-net.ne.jp/symbio21/index.html> 】

【名古屋支部】

1.平針観察会 第1土曜日 9時30分～	針名神社駐車場 地下鉄「平針」駅より南東へ徒歩15分	佐藤 05617-3-5674
2.牧野ヶ池観察会 第1土曜日 9時30分～	公園管理事務所前 *期日変更があります 地下鉄「星ヶ丘」また「本郷」より市バス「梅森坂」また「梅森坂口」下車	幅 052-703-9607
3.大森観察会 第1日曜日 9時30分～	守山環境事務所前 名鉄瀬戸線「大森金城学院前」駅より北へ徒歩10分	柴田 052-793-3209
4.瑞穂公園観察会 第2火曜日 10時～	瑞穂陸上競技場東の児童公園 地下鉄「新端橋」駅より徒歩15分	松浦 052-834-0594
5.猪高緑地観察会 第2土曜日 9時30分～	名東生涯学習センター前 地下鉄「本郷」駅より市バス「障害者スポーツセンター」下車	堀田 052-774-1196
6.平和公園観察会 第2日曜日 9時30分～	清風荘入口(新池東) 地下鉄「東山公園」駅より東へ徒歩10分	滝川 052-781-2595
7.大高緑地観察会 第2日曜日 9時30分～	第1駐車場壳店前 名鉄「左京山」駅より南へ徒歩10分	山田 0562-97-6857
8.東山観察会 第3日曜日 9時30分～	東山植物園正門横広場 地下鉄「東山公園」駅より南へ徒歩10分	滝田 052-782-2663
9.明徳緑地観察会 第4土曜日 9時30分～	明徳池東の駐輪場 地下鉄「本郷」駅より市バス「明徳池東」下車	布目 052-771-0396
10.相生山緑地観察会 第4土曜日 9時30分～(5・8月異)	梅野公園東グラウンド(10～3月) オアシスの森相生口(4～9月) 地下鉄「野並」駅徒歩10分 ↓ 市バス「境根」停留所近く	近藤 052-822-7460
11.庄内緑地ネイチャーフィーリング 奇数月の第4日曜日 10時～	庄内緑地グリーンプラザ前 地下鉄「庄内緑地公園」駅より徒歩3分	岩沢 0568-23-5903

* 庄内緑地のネイチャーフィーリングは障害のある人たちと共に楽しむ自然観察会です。

【奥三河支部】

稻武町夏焼城山観察会 11月16日(日) 10時～	稻武町道の駅「名倉」駐車場	今泉 05362-2-2968
------------------------------	---------------	--------------------

観察会の名称／日時	集合場所	問合せ
【 西三河支部 】		
1.境川自然観察会 第1日曜日 9時30分～	境川浄化センター正門前	宮原 0566-23-8223
2.閻刈渓谷自然観察会 第2日曜日 9時30分～	閻刈渓谷入り口(事務所前)	原田 0564-83-2202
3.平戸橋自然観察会 第4日曜日 9時30分～	平戸橋いこいの広場	山原 0565-44-2011
4.王滝渓谷自然観察会 年4回(次回は2月第3土曜日予定)	大滝渓谷入口駐車場	深見 0565-28-4958
5.岡崎体験の森自然観察会 第2木曜日 10時～	岡崎体験の森管理棟前 駐車場より徒歩で奥へ進みます	奥居 0564-51-7447

【 東三河支部 】

吉祥山の四季を探そう 第2日曜日 9時30分～12時	吉祥山南西麓、豊橋市民の森駐車場	間瀬 0532-45-1335
-------------------------------	------------------	--------------------

* 東三河支部の定例観察会の「吉祥山」編は、12月までです。来年度は場所が変更になります。

詳しくは、東三河自然観察会のホームページをご覧ください。【 <http://www5c.biglobe.ne.jp/~kajino/> 】

【 知多支部 】

「木の実、草のみ、落ち葉の観察どう工夫をしよう」 11月1日(土) 9時30分～ *事前申し込み	知多市梅の館朝市前	山田絹 0562-34-8755
「森から送られた宝物で工夫をしよう」 11月3日(月) 9時30分～	東海市メルヘンの森駐車場	吉川 052-381-4426
「シイなど食べられる木の実を探してみよう」 11月8日(土) 9時30分～	東浦高校正門前	桑原 0562-83-2357
「秋となかよし！ドングリ工作をしよう」 11月9日(日) 9時30分～	大府市共長公民館駐車場	吉川 052-381-4426
「住吉神社のシャシャンボやムクノキの実を観察し秋をあじわう」 11月15日(土) 9時30分～	ナゴヤハウシングセンター半田会場駐車場	稻生 0569-29-0419
「たくさん帰ったきた渡り鳥とそれを狙う猛禽類を見よう」 11月16日(日) 9時30分～	名古屋市武豊野外活動センター駐車場	鈴木樹 0569-72-1393
「海上の森の自然を訪ねて」 11月24日(月) 8時～ *事前申込み(知多市地域文化センター)	知多市地域文化センター	降幡 0569-43-8060

* 知多支部の観察会は日時・場所が異なりますので、12月以降の観察会の予定は、知多支部自然観察会のホームページをご覧ください。【 <http://www.japan-net.ne.jp/~furihata/> 】

『NACS - J 自然観察指導員 フォローアップ研修会：観察会の基本』に参加して

2003年7月23日(水)～25日(金)：白馬村落倉・落倉自然園周辺

苻川真弓（東三河）

今回は自然観察指導員長野連絡協議会の代表の村上さん、事務局長の小川さん、しろうまの自然の会の今井さん、NACS-J普及広報部の伝井さんら講師の方々と山形から兵庫までの参加11人と終始和やかに、ヒュッテ「星と嵐」の岸さんご夫妻の暖かいおもてなしと美味しい食事で、恒例の最後のプログラム発表を除いては楽しい研修でした。

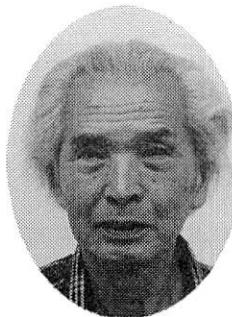
最初の講習会でも学びましたが、忘れていたことを思い出しました。その一例をあげます。

- ・「植物の名前がわからない？」→「この花の名前をみんなにつけてもらう」(知っている人もその名前以外で)
- ・「森や公園に入る前に」→「この森や公園の奥はどうなっているかな」「何がすんでいるかな」(問い合わせ)
- ・「森や公園に入って」→「この辺の植物はいくつあるかな」(名前を言うより、いくつ発見できるか)

その他、自然に関する話(実体験)を少し入れたり、参加者より情報を発表してもらったり、スケッチブックの活用や、気に入った本の一小節を読んでみる事も良いと感じました。今回、今井さんよりレイチェル・カーソンの「センス・オブ・ワンダー」、村上さんの自作の物語「ブナ太郎」(浅間山にまつわるお話)を聞きました。なかなか実際の定例観察会ではできないかもしれません、今後総合学習に参加される方などは取り入れても良いのでは、と思いました。また、上記のように毎月30ヶ所以上で定例観察会が行われており、多くの指導員の方々が参加されていますが、観察会の場所が自宅より遠かったり、日時が合わずなかなか参加でいないと言う方は、まずは1番良く知っている自宅や職場の環境で観察会を開いてみてはいかがですか？講習会を受けたものの、植物や生物の名前がわからない物が多く聞かれたらどうしようと言う不安もありますが、事前の下見で大まかな名前は調べておき、時にはベテランの指導員の方に参加してもらい、「はじめの一歩」を踏み出しませんか。…また協議会でもこのような企画を定期的にあれば良いと思います。

7月号にて協議会の役員・理事の名前をお知らせしていますが、今回より連続で顔写真とコメントを掲載いたします。各地の観察会や講座等に参加した際ご一緒になりましたら、お声をかけてください。今回は会長、副会長、監事、事務局の方々です。尚、大竹会長のコメントは今年の新年号及び、5月号にて、松尾さんは5月号会員リレーにもコメントがありますので、そちらをご覧ください。

①名前②役(支部)／居住地



①大竹 勝
②会長(尾張支部)
犬山市在住

森の講習会の間伐の際に参加者と一緒に高い所まで枝打ちをされる姿がありました。ツルウメモドキのリース製作のコツ(実がつぼみのうちに切って形を整える)を教えていただきました。今後いろいろな場所でお会いした際にはアドバイスをいただきましょう。

(編集部:荷川)



①中西 正
②副会長(東三河支部)
豊橋市在住

愛知県の極東に住んでいます。植生図を開くと一目瞭然で、自然は東に広く残り、愛知県を代表する自然地域も集中しています。そこは田舎ですが、自然に関しては満足でき、外に出ることなく自己完結出来ます。

そんな私が、協議会に参加させていただいて、愛知県には三河とは異なった自然があり、都会的なものがあることを知りました。本年度の多くの理事会、その前の組織検討委員会、その批判の対象になった10年前の組織検討に多くの時間を費やしました。しかし、そこで外の世界に触ることができました。

端っこにあるから分かることも多いものです。極東一田舎からの目で、新生協議会の方向を見定めたいと思っています。

この頃の協議会の理事・役員会は…
この愛知県自然観察連絡協議会にも「規約」「会則」があり、本年度は見直しをし、検討も最終段階に入っています。

先般の講演会の前にもみなさんが集り、議論されていました。(9/23:NPOセンターにて)



①松尾 初
②副会長(尾張支部)
春日井市在住

5月号の会員リレーにて「フェノロジー」に関心あり、と自己紹介されています。観察会などで一緒になった際には、現場実習という形でおたずねしてみたいですね。

(編集部:荷川)





①鬼頭 弘
②監事（尾張支部）
(愛知郡東郷町在住)

昭和64年に講習会を終えて、現在、定例観察会を2カ所、不定期を2カ所やっています。今まで続けてこられたのは、仲間の指導員のバックアップと観察会に集まってくれる方々の熱意に負うところが多きいと感謝しています。

観察会に熱を入れるにつれ、協議会の仕事も手伝うようになり、今年は監事を務めさせて頂いています。これまでの協議会への関わりは、自分を育ててくれた会をより良くしたい、自分ができることをしよう、です。

協議会にはいろいろな人が集まっているからこそ、さまざまなネットワークが可能性をうみ、プロジェクトが時宜を得たもので、適切であれば多くの市民の共感を得られ、会の目的の達成に近づくことができると思います。監事として、あと半年の任期ですが、自分なりに頑張ろうと考えています。よろしくお願ひします。



①間瀬 美子
②監事（東三河支部）
(豊橋市在住)

監事って？会計報告の後で一言いう役かな。などと軽く考えて受けたら、とんでもない役！「我はいまだその任にあらず」と逃げ出したい所だけれどそうは行かず、みんな、難しい事を考えているなあ、と感心しながら理事会の末席をけがさせてもらっています。

とにかく、理事会のみなさんは建設的で熱心です。会をどう盛り立て行つたらいいか、真剣に考えています。そして、自然をこよなく愛しています。

大所帯をまとめて行くのは、並大抵のことではありません。その中でちょっとでも「大久保ヒコザ」になれるかな。なれたらいいな。



①近藤記巳子
②事務局（名古屋支部）
(名古屋市在住)

昨年に引き続き事務局を担当していますが、前任者である佐藤国彦さんの長年の功績に今も驚異と尊敬の連続です。煩雑かつ多量な仕事は想像をはるか超えています。しかしそれらは、会員の意識が少し高まれば負担は軽減されるはずです。

事務局体制の整備・確立は、限られた者が奔走するだけでの実現はありません。協議会役員・各理事との連携、また会員ひとり一人の協力が必要です。

事務局がスムーズによりよく機能するために、みなさんの力添えを是非お願ひいたします。



◎今号より協議会理事及び監事の方々を紹介のため、会員リレーは一時中断いたします。

■ 理事会報告

●日時：9月 23 日 場所：なごやボランティア・NPOセンター 出席者：19名

1. 経理規定（案）についての検討
2. 規約（案）遡っての検討
3. リーフレット作成について
A4サイズ両面印刷で3つ折りタイプ
文面・写真について議論
11月の指導員講習会に間に合わせる
4. その他
①新人研修（新旧指導員交流会）について
②「あいちの豊かな自然100選」について

※次回の開催 / 10月 25 日（土）午後 2 時より

（報告：近藤）

【補足】『あいちの豊かな自然100選』（エコスポットあいち）

先日の理事会にて、県環境部から各支部に身近な自然のスポット推薦（アンケート）の協力の依頼がありました。

内容は、各支部長よりメールや紙面・口頭等で伝言されていますように、（以下は、当日の資料より抜粋）【県内の「環境関連技術の集積状況」や「豊かな自然」を理解していただくため、愛知県の環境に関する情報を県民等に広く情報提供をするインターネットホームページ「エコスポットあいち」を作成し、平成16年度より正式運用開始します。そのホームページにおいて『あいちの豊かな自然100選』とし、県内のすぐれた自然や里山など身近にふれ合うことができるスポットを紹介する企画を予定とのことです。「豊かな自然」として推薦したい場所を各支部ごと10ヶ所推薦（アンケート記入）の協力のお願い】でした。

*この事業は愛知県自然観察指導員連絡協議会への受託事業ではありませんので、協力できる方は内容概要等を把握した上で各支部長まで、連絡・相談してください。

（編集部：苻川）

～<ほん>のちょっと紹介～

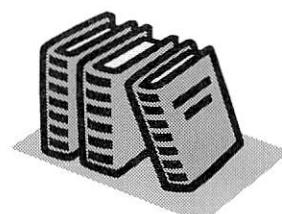
「おとの自然塾」
ビーネイチャースクール編
岩波アクティブ新書 78 岩波書店刊 760円

各分野で活躍するナチュラリストが、多様な自然に親しむための視点やヒントを紹介。クラフトや文字どおり自然に浸る（海に浸る？）プログラムから、ライフスタイルを見直す方法まで、さまざまなプログラムが提案されている。

それぞれが短文なため目次から関心の高い部分や、気になる言葉をもとに拾い読みすることも、また時間のあるとき折に触れて読むことも可能。

アクティビティもクラフトも共に、観察会で活用できるかも・・・。

（近藤）



自然観察指導員講習会に協力

11月1・2・3日に(財)日本自然保護協会及び愛知県主催の自然観察指導員講習会が犬山市の犬山国際ユースホステルで開催されます。

この事業には、(財)日本自然保護協会からの講師に加え、愛知県自然観察指導員連絡協議会からも地元講師として複数の会員が協力します。本年、作成されたリーフレットが協議会・各支部の組織や活動内容の紹介にさっそく役立ちます。

新たなメンバーを多数、迎えたいと思います。

さて新会員を迎える、新人研修・交流会が下記のように開催されます。是非、多くの会員のみなさんの参加をお待ちしています。

(近藤)

新人研修会「はじめの一歩」新旧指導員懇親会

ぜひ参加を! 協議会は何をしているところ? どんな人が活動しているの?

指導員講習会受講後、協議会に加入の新会員を迎えての研修及び懇親会を企画しました。是非、会を「そっとのぞく」という気分で参加してみませんか。

日時: 12月23日(祝)午後1時30分~(受付:午後1時より開始)

場所: なごやボランティア・NPOセンター(伏見ライフプラザ 12階)

地下鉄「伏見」 6番出口より南へ徒歩6分

Tel (052) 222-5781

名古屋市中区栄1・23・13

対象: 全会員 特に新指導員大歓迎!

内容: 協議会紹介

観察会紹介

- ・ネイチャーフィーリング
- ・稲作り&観察
- ・都市公園で観察会
- ・お母さんの観察会・夜の観察会など

茶話会

問合せ: 研修担当: 大谷

Tel/Fax: (0572) 23-6907

Mail: kokokei@nifty.com

地下鉄伏見

御園座

科学館

白川公園

写真集「奥三河の四季」

調査「イヌセンブリの記録」

届きました!



会員の近藤守さん(西三河支部)から愛知県では準絶滅危惧種(日本の絶滅危惧Ⅱ類)であるイヌセンブリの調査をまとめた記録が届きました。また地域の図書館のギャラリーで写真展開催に用いられたアルバムも届きました。

写真の一枚一枚に、撮影者である近藤守さんの細やかな愛情がそがれています。是非、会員のみなさんにも見ていただきたいので、何らかの方法を検討したいと思います。こんなとき拠点を持っていれば、「事務所オープン時はいつでもどうぞ」といえるのですが・・・。

☆みなさんの作品・調査記録・写真など編集部または事務局までお知らせください。

協議会ニュースの本紙面で近況と共に紹介します。(連絡先は最終ページに掲載)

行事予定

日時	行事名	集合・開催場所等	内容	問合せ
11/1(土)～11/3(祝)	第337回 NACS-J 自然観察指導員講習会	犬山国際ユースホステル	講習会	県環境課
11/16(日) 9時30分～	「お城下・沖野の秋風景」 (支部主催の芋煮会)	豊橋公園城下橋付近 (朝倉川河口)	お城下の豊川や沖野川岸 や田畠の秋を楽しめます。	岩瀬(東三河) 0532-45-9111
11/22(土)～23(日) 7時45分集合	「知多支部と西三河地方の 視察研修と交流会」	大池テニスコート横P	視察研修・交流会 日帰食事無の人どこでも参加可	降幡(知多) 0569-43-8060
*コース:8時東海市大池公園出発→9時30分西尾いきものふれあいの里→12時岡崎体验の森→トヨタエコの森→16時宿着 2日目:9時豊田平戸橋観察会→12時豊田市自然観察の森→(14時30分前日トヨタエコの森が見学できなかった場合)→帰				
12/23(祝) 13時30分～	新人研修会「はじめの一歩」なごやボランティア 及び、新旧指導員懇親会	NPOセンター	研修会・懇親会	大谷(研修部) 0572-23-6907
*多くの方のご意見、参加申し込みをメール【kokokei@nifty.com】またはTEL/Faxでお願いいたします。				

表紙：9月23日講演会スナップ

左／講演会後茶話会での村上興正氏
ご多忙の中、様々な質問にお答え頂きました。
右／満席の講演会風景

編集に参加してみませんか？
企画案・イラストや写真・レイアウト
や原稿書きなど一度参加してみたい方は、編集部迄どうぞ連絡ください。

編集スタッフ

- ・企画／編集／レイアウト
近藤 記巳子、荷川 真弓、吉田 裕孝
- ・発送
岩沙 雅代、齋竹 善行、古川 俊江、
横井 邦子、横田 法子

<編集部・事務局よりお詫び>

先回号(90号)の発行・発送が遅れ
申し訳ありません。今回90号・91号
と一緒に届け致します。

編集後記

9月の講演会の村上 興正先生の
「外来種」のお話は、とてもわかり
やすく、人間の1人1人の起こした
事が自然環境を変化させ、人間にも
大きく影響がある事を改めて認識する
良い機会になりました。今回の講
演会をサポートされました、大谷さ
ん、巾さん、堀田さん、山田(博)さ
ん、吉川さん、石田さんお疲れさま
でした。

さて、11月号の協議会ニュース
はいかがでしょうか？ 今回初めて
レイアウトを担当しましたので、お
気付きの点、ご意見を等、下記のメー
ルアドレス迄お願いします。(荷川)
himetaiko_ti@yahoo.co.jp

◎みなさまのご意見・ご感想など原稿をお寄
せください。

尚、頂いた原稿は内容を変えない程度に校正す
る事があります、あらかじめご了承下さい。

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース編集部

〒491-0057 愛知県一宮市今伊勢町宮後
字西松山 43-1 大野荘 B-106
吉田 裕孝 Tel/Fax 0586-43-3829

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋市南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101号
近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460